赤野井湾底質改良水域のモニタリング調査

幡野 真隆・岡村 貴司

◆背景・目的

湖底質の悪化の著しかった赤野井湾において、漁場環境を改善するため、平成4年から10年にかけて堆積泥の浚渫と覆砂事業が行われてきた。本調査は、その改善効果の維持状況を把握するため継続して実施している。

◆成果の内容・特徴

- 過年度と同様、平成4、6、8年覆砂地点および無覆砂地点(**図1**)において底質および底生生物の分布状況をモニタリングしたところ、平成8年覆砂区で引き続き泥の堆積が認められ、貝類も他地点よりも少なかった。
- 魚類の生息状況は、無覆砂地点においては、ワタカが1尾捕獲された以外はオオクチバス、ブルーギルのみ捕獲された。覆砂地点では外来魚も捕獲されたが、尾数ではデメモロコが最も多く確認された。。
- 過年度から覆砂区域北部で泥の堆積が懸念されたことから、法竜川河口を中心に覆砂区域内で泥の堆積厚を調査した結果、法竜川からの負荷により河口の西側から南側に向かって泥の堆積が起きていることが確認された(**図2**)。
- 平成16年度から水草の繁茂状況を調査しており、今年度も覆砂区域内で水草の繁茂が確認された。

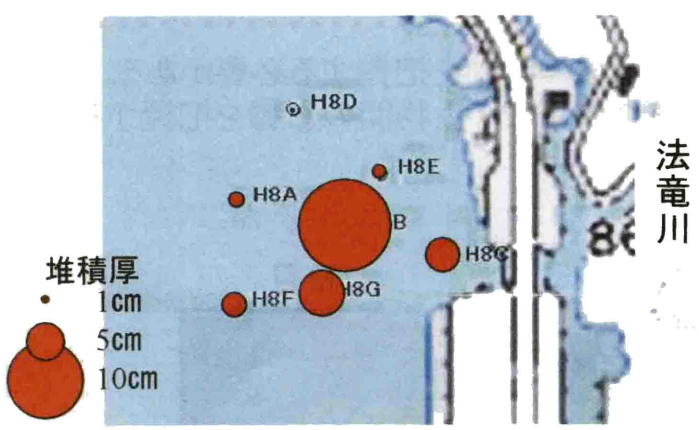
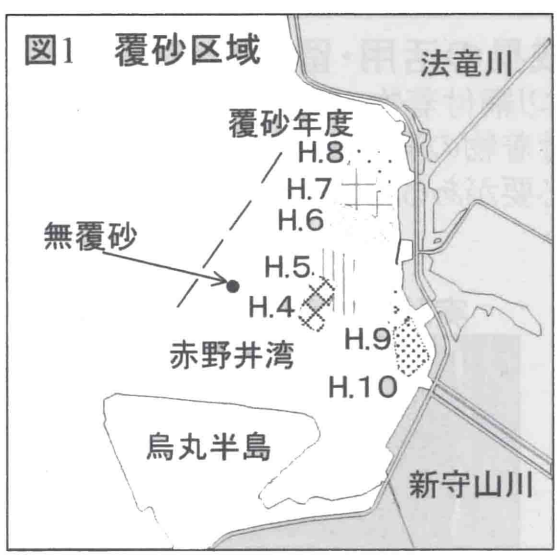


図2 法竜川河口での泥の堆積厚



◆成果の活用・留意点

- 湾内北東部で泥の堆積や水草の繁茂が認められたことから、今後も動向を注意深く監視していく必要があるとともに、必要に応じて耕耘等の改善策を講じる必要がある。